＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉑―私たちの希望の源』

武田真治牧師

創世記１４：１７～２０ ヘブライ書 ６：１９～７：１０

このヘブライ人の手紙は“ひとつの説教”と考えてもいいと言われています。おそらくは、かつてこの手紙が宛てられている教会にこの手紙の著者が一度は牧者として赴任していたことがあるのだろうと考えられていますから、教会員たちを心配し、間違った方向へと向かわないように説得しようという語調や言葉遣いになっているのだろうと思います。そして、当時、そのような説教や説得の方法としてよく用いられていたのが“予型論”という語り口でした。これは、何かよく似た存在（＝予型、タイプ）をあらかじめ示すことで、解説したい対象を理解しやすくするための方法です。今日の箇所がまさにそうで、イエス様を理解するために旧約聖書から“メルキゼデク”という人物を予型者として示すのです。即ち「イエスは、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです」と言われ、そして次の節から「このメルキゼデクとはサレムの王であり、いと高き神の祭司でしたが」とまずこの人物について説いていくのです。

そして以下に示されていくことは２つあります。一つはこのメルキゼデクにアブラハムが「十分の一を献げた」という事実です。これが「王たちを滅ぼして戻って来たアブラハムを出迎え、そして祝福しました。アブラハムは、メルキゼデクにすべてのものの十分の一を分け与えました」です。当時の人々、特にヘブライ人＝旧約の民は“十分の一を献げる”と聞けば、イスラエルの民が祭司であるレビ人たちに献げた献金額を思い浮かべました。イエス様の時代でもこの十分の一献金をファリサイ派の人々や律法学者たちは守っていたと出てきます（マタイ 23 章）。そのようにレビ人たちへの献金であったものが、そのはるか昔、しかも「レビはまだこの父（＝アブラハム）の腰の中にいた」時に、メルキゼデクという人物に“十分の一を献げた”と！これはメルキゼデクを特別な“祭司”として認めていたことを示していると。レビ人という祭司系族が生まれる前に、全く出身や血統にとらわれない“祭司”が存在した事実を示していることになると。

そしてもう一つの点は、メルキゼデクは後にも先にも、この創世記 14 章にした登場していません。謎の人物と言い得るでしょう。しかしだからこそ「彼には生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であって、永遠に祭司です」と言い得ると。まさに天から遣わされた人物だったのではないかと。この点もイエス様＝神の子の予型者であると。当時の人達は小さい頃からアブラハムについてはよく聞かされていことでしょう。しかし、その彼がこれほどまでに礼を尽くしたメルキゼデクという人物がいたことを教えられて、目が開かれる思いがしたのではなかったでしょうか。それ故「この人（＝メルキゼデク）がどんなに偉大であったかを考えてみなさい」と言われているのです。

今の私たちにとっては逆にイエス様から旧約聖書を読み直す、良ききっかけになっているのではないかと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

◉聖書研究・祈祷会　Ⅰ．８月 ３日（水）20：00
Ⅱ．８月 ４日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　平和聖日（８/14）を覚えて
担 当 者：　（水）松下　　（木）柿澤
祈 る 人：　羽倉さん　　橋本さん

【教勢報告】

主日礼拝	男 20	女 69	計 89
祈祷会 Ⅰ.	男 6	女 2	計 8
祈祷会 Ⅱ.	男 3	女 7	計 10
日曜学校	幼稚科 3	小中科 10	計 13

【次週礼拝】　８月　７日（日）

聖　書：　エレミヤ書　３１：３１～３４
ヘブライ人への手紙　７：１１～２２
説　教：　「ヘブライ㉒ ― 掟ではなく、命の力によって」　武田 真治 牧師
讃美歌：　１６(1)、３２(1)、４５６(1と2)、３９２(1と4)、７８(1)、９０(1)

【次週当番表】

司式:金刺長老　奏楽:中村　礼拝:岩佐長老
献金：髙橋　田嶋　　受付：西尾　森本
配餐：羽倉、保坂、齋藤、金刺、岩佐
会堂準備：浅井　阿部　齋藤　山田
看板：保坂　　週報：岩佐　お花：（休み）

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・８月誕生祝福　・長老会

６３－３１

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　７月　３１日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/